

No. 113  
79

# 第三国集団研修実施協議調査団報告書

—マレーシアAIBD, 上級放送技術—

平成元年3月

国際協力事業団  
研修事業部

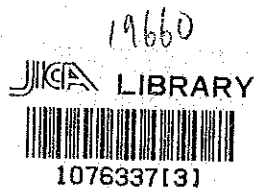
JICA  
113  
79  
TAD  
LIBRARY

所  
R  
89-17



# 第三国集団研修実施協議調査団報告書

—マレーシア A I B D, 上級放送技術—



平成元年 3 月

国際協力事業団  
研修事業部

国際協力事業団

19660

## 序 文

本報告書は、平成元年2月13日から同18日まで、マレーシアに派遣した「マレーシア第三国研修『上級放送技術』実施協議調査団」の調査及び協議事項をとりまとめたものである。

調査団は、昭和63年4月に派遣されたマレーシア第3国集団研修「ENG/EFP技術」評価調査団の報告に基づき、平成元年度実施予定をしている「上級放送技術」研修コースに関するR/Dの作成・署名を主目的としていた。

調査団派遣に先立ち、協議実施機関であるアジア太平洋放送開発研修所(AIBD)と日本側との間で、R/D草案につき意見交換がある程度行なわれており、全般的に見て調査及び協議はスムーズに行なわれた。

本調査団の派遣に際し協力を賜った外務省、郵政省、日本放送協会、在マレーシア日本大使館及び派遣専門家の各位に深甚な謝意を表する次第である。

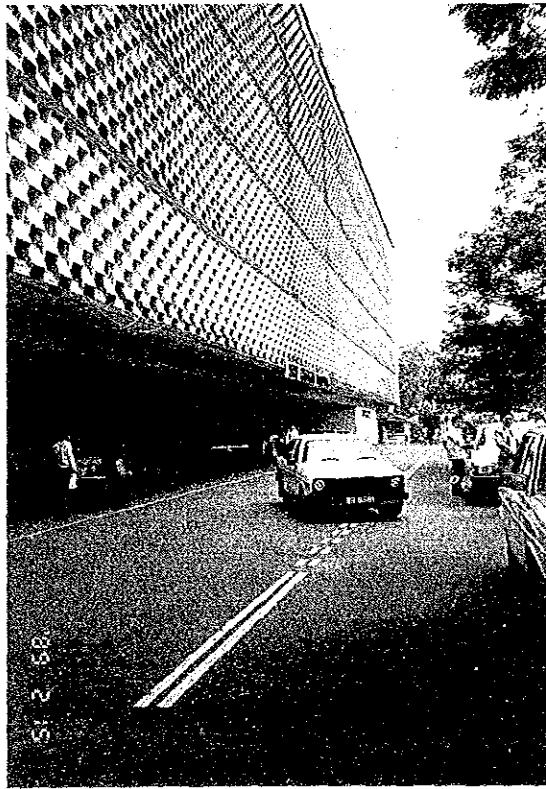
平成元年3月

研修事業部長





R/D 著名



Federal House





Federal House 内の研修室 (単独供与機材設置済み)





# 目 次

序 文  
写 真

1. 実施協議調査団の派遣	1
1. 1 派遣の経緯と目的	1
1. 2 調査団の構成	1
1. 3 日 程 表	2
1. 4 主要面談者	3
2. 討議議事録（R/D）作成の協議経緯	4
2. 1 研修計画	4
2. 2 実施手続	5
2. 3 双方の分担	5
3. 第三国研修実施上の留意点	8
3. 1 研修計画	8
3. 2 実施体制	9
4. その他特記事項	14
付属資料 R/D	15



## 1. 実施協議団の派遣

### 1. 1 派遣の経緯と目的

TV番組の制作には小型TVカメラ、VTR機器が広く普及しているが、開発途上国においてはこれらを十分に使いこなせる人材が不足している。このような背景の下、アジア太平洋放送開発研究所 (Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development-略称AIBD) において、1983年度から1987年度までJICAの第三国研修スキームによりENG (Electronic News Gathering) / EFP (Electronic Field Production) 技術にかかるコースを実施した。しかし同分野の人材育成に対してのニーズは依然として高く、研修内容を従来よりさらに高度にした「上級放送技術」コース実施の要請があり、実施細目について協議し、討議議事録 (R/D) に署名するため本チームが派遣された。

### 1. 2 調査団の構成

担 当	氏 名	所 属 先 お よ び 職 位
団長・総 括	木全 紀元	JICA研修事業部研修第二課・課長
団員・協力企画	川元 隆志	郵政省通信政策局国際協力課
団員・研修計画	中川 正己	NHK総合企画室 (国際協力)
団員・研修運営	橋口 道代	JICA研修事業部管理課

1. 3 日 程 表

日順	月日曜	行 程	業 務
1	2. 13 (月)	東京 - クアラルンプール	
2	2. 14 (火)		JICA事務所打合せ 日本大使館表敬訪問 AIBD表敬訪問 ABU表敬訪問 IPTAR表敬訪問
3	2. 15 (水)		AIBDとの協議 関係施設等見学 (Federal House, Furama Hotel)
4	2. 16 (木)		AIBDとの協議
5	2. 17 (金)		R/D署名 JICA事務所報告 日本大使館報告
6	2. 18 (土)	クアラルンプール - 東京	

#### 1. 4 主要面談者

##### A I B D (Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development)

Dato Abudullah Mohamad	Director
Mr. Brajesh Batia	
Mr. John Nettleton	General Programme Coordinator
Mr. Margaret Juliana Dass	Finance
白石 克己	J I C A 長期派遣専門家
喜久村 一	J I C A 長期派遣専門家

##### A B U (Asia-Pacific Broadcasting Union)

Mr. Hugh Leonard	Secretary-General
森口 宏	Senior Executive Officer

##### I P T A R

Mr. Ismail Mohd. Jah	Director
Mr. Muhd Nor Zakaria	Deputy Director
Mr. Chua Chin Teik	Controller Engineering Training
Mr. Billy Wong Yew Meng	Controller Programme Training

##### 在マレーシア日本国大使館

三村 穰	一等書記官
------	-------

##### J I C A マレーシア事務所

岡部 和夫	所 長
酒井 康雄	所 員

## 2. 討議議事録 (R/D) 作成の協議経緯

AIBDとの協議にあたっては、1983年度から実施されていたENG/EFPコースのR/Dをベースとした新R/D案を、事前にJICAマレーシア事務所経由で先方に提案しており、これに対するAIBD側の感触も了知していた。

今次交渉にあたっては、AIBD側の感触を踏まえた上でのR/DのJICA案を携行しており、交渉はこのJICA案の文言修正をめぐって行なわれた。

以下主要論点をまとめることとする。

### 2.1 研修計画

#### (1) コース名

“Maintenance and Operation of ENG/EFP-Advanced Course” とするか “Operation and Maintenance of ENG/EFP-Advanced Course” とするかということについて、AIBD側より、「前者の場合技術者の研修コースに限定する可能性がある。」との発言があり、日本側もこれを認め、後者とすることとなった。

#### (2) 到達目標

(3)の“To acquire the recognition of role and cooperation system for production through experience.” という記述について、より具体的に表現した方が良いのではないかと、AIBD側より発言があり、日本側もこれを認め、協議の結果、“To acquire the ability to recognise the different roles of the members of the production team and to develop a spirit of team-work and cooperation in the production process.” とすることとなった。

#### (3) 期間

AIBD側より、「実施期間を11月13日から12月23日までとしたい。」との発言があり、日本側もこれを了承した。

#### (4) 割当国

AIBD側より、「ヴェトナムはAIBD加盟国であることから、割当国に入れて欲しい」との発言があり、日本側はこれを認め、入れることとなった。またその際、「AIBDはアジア・太平洋のすべての国をメンバーとしてカバーしており、5年間にナウル、PNG、フィジー等も割当国に含める可能性がある。との発言があったが、新規事項については、年ごとに協議することを日本側より発言した。

(注： 調査団出発前の対処方針策定会議において、「ヴェトナムについては、現在、二国間の協力はケース・バイ・ケースで対処しているが、AIBDは国際機関であることか



ら、要請があれば割当国に含めても構わない」との方針が、外務省より示されていた。)

## 2.2 実施手続

### (1) 受入れ手続

日本側より、C/Pの受入れについて、1988年度はマレーシア国营放送局(RTM)の技術スタッフをJICA事務所経由の手続きで受け入れているが、次年度以降については、国際機関研修員の扱いとなるためA-2, 3フォームを大使館経由で提出するように説明した。

また、その際、C/Pが帰国後、今後5年間の本コースの実施の際に講師として確実に雇用されるかどうかについて、日本側から質問したところ、AIBD側より

1. RTM、IPTARの職員ならば無条件に協力させる。
2. 他国からのC/Pの場合は、選出の段階で協力を約束させる。他国とマレーシア間の旅費については、JICA以外の資金源から充当する。

との回答があった。

## 2.3 双方の負担

### (1) 機材

日本側より、本コースの実施にあたって、AIBD側が1セットの機材の借与を受けることになっているが、その状況について質問したところ、AIBD側より「今まで借与の依頼をして断られたことはなく、R/D署名後、AIBDより公式文書を出して要請する。」との回答があった。

### (2) カリキュラム

協議の結果、ANNEX Iのとおりとなった。

その際日本側より、「JICAの個別派遣長期専門家が講師となる場合はJICAの分担と考える。」旨発言し、了承された。

また、AIBD側より、「放送に関する新技術は日進月歩で開発されるので、毎年それらを紹介してほしい。」との発言があったが、日本側より、本コースの主旨とは若干異なる旨説明し、理解を求めた。

### (3) 予定表

本コースの実施期間に合わせて、協議の結果、ANNEX IIのとおりとすることとなった。

### (4) 経費

#### I 受入諸費

#### ① 日当

AIBD側より、他のコースと同等としたいとの発言があり、@40→@35とするこ

とで双方合意した。

② 宿 泊

HOTEL FURAMAにてツイン・ルームを使用するというので、@4.0→@3.5とすることで双方合意した。

II 研修諸費

① 外部講師謝金

AIBD側より、500M\$（マレイシアドル）で間に合うとの発言があり、日本側はこれを了承した。

② 交 通 費

AIBD側より、「研修旅行は1回あたりバス1台で済むが、3回実施したい。また、研修員の空港送迎も必要である。」との発言があり、日本側はこれを了承し、別添ANNEXⅢのとおりとした。

③ 資 材 費

スタジオセットについて、AIBD側より、初年度については、より多くの大道具等を購入する必要があり、5000→8600に増額してほしいとの発言があり、日本側は、これを妥当であると判断し、了承した。

ビデオテープについて、AIBD側より、研修効果を高めるために、SP（Special Performance）テープ使用が必要であり、6000→6440に増額してほしいとの発言があり、日本側は、その必要性を認めこれを了承した。

④ 付 属 品

AIBD側より、スタジオセット、ビデオテープ以外に、ケーブル・コネクタ等の消耗品が必要だとの発言があり、日本側もその必要性を認め、5000M\$を計上することとした。

⑤ 印刷製本費

コピー→@0.15×600ページ×30人、製本→@0.20×600ページ×30人  
教材印刷→@0.40×500ページ×30人、が必要であると、AIBD側からの要望があり、日本側はこの必要性を認め、了承した。

⑥ 筆記用具

AIBD側より、「他のコースと同様に研修員各人にAIBD制定のバインダー等を配布したい。」との発言があり、日本側はこれを了承し、@41.80×30=1254M\$を計上した。

⑦ 最終報告作成費

AIBD側より、「研修員が最終報告を作成する際に必要な筆記用具、用紙等が必要であ

る。」との発言があり、日本側はこれを了承し、500M\$を計上した。

⑧ 屋外実習費

AIBD側より、「本コース研修には野外実習は不可欠であり、屋外実習時には諸費用が生じる。」との発言があり、日本側もその必要性を認め、2000M\$を計上した。

### 3. 研修実施上の留意点

#### 3.1 研修計画

研修実施にあたっての留意点：

- (1) 第1週は翌週からの研修を効率的に実施するため、受講者の基礎知識の平準化に努める。
- (2) 第2～3週は、プロデューサ・グループと技術者グループに分け、それぞれの分野に必要な知識・技能の向上に努める。
  - (ア) プロデューサ・グループは企画から編集まで効率的・効果的な番組制作手法を学ぶとともに機材の基本的な操作方法を知り、取材時における技術者とのチームワーク作りに役立てる。
  - (イ) 技術者グループは保守技術に主眼をおき、機器の回路・機能を理論的に理解するとともに、測定・調整実習により保守作業に必要な知識・技能を習得する。
- (3) 第4週以降は、番組を企画し、それを作り上げる作業のなかで、プロデューサ、技術者それぞれの技能向上をはかるとともに、それぞれの役割分担と協同作業についての認識を高める。
- (4) 制作した番組について評価し、改善の指針を与える。
- (5) 放送人として広い視野を持つために衛星伝送や現在展開されている新しい技術動向についての知識を習得する。

	研 修 内 容	日 数	担 当
第 1 週	開講式、オリエンテーション	0.5	A I B D
	カントリーレポート	0.5	A I B D
	ENG/EFP概論	1.0	J I C A
	カメラ/VTR技術	1.0	J I C A
	録音技術	1.0	J I C A
	照明技術	1.0	A I B D
第 2・3 週	(プロデューサ)		
	番組企画・制作法	4.0	J I C A
	編集法	2.0	J I C A
	ENG/EFP機器操作法	1.0	J I C A/A I B D
	(技 術 者)		
	ENG/EFP機能(理論)	4.0	J I C A
運用・保守・測定・調整	3.0	J I C A/A I B D	
	番組衛星伝送	1.0	A I B D
	新技術紹介	2.0	J I C A/A I B D
第 4 週	編集機操作実習	1.0	A I B D
	ENG/EFP番組制作実習	4.0	J I C A/A I B D
第 5 週	編集実習	2.0	A I B D/J I C A
	スタジオ制作実習	3.0	A I B D/J I C A
第 6 週	完プロ編集実習	2.0	J I C A
	番組検討	3.0	A I B D/J I C A
	Q&A、報告書作成	1.0	A I B D/J I C A
	閉講式	0.5	A I B D

### 3. 2 実 施 体 制

A I B Dは、マレーシア国営放送(R T M : Radio Television Malaysia)の全面的な協力を得ており、R T Mの研修所であるI P T A R (Institut Penyiaran Tun Abdul Razak ; Tun Abdul Razak Broadcasting Institute)と同一の建物内にあつて、設備を大幅に共用している。一方、クアラルンプルの衛星都市ペタリンジャヤ(Petaling Jaya)にあるFederal Houseの中にR T Mドラマ制作部施設の一部をA I B Dが借用し、ENG機材・V T R編集機材を設置して研修が行えるよう準備中で、平成元年3月下旬には事務所・講義室・編集室等が完成予定である。各部屋の配置を3-2-1図に示す。昭和63年度J I C A単独供与機材もこの場所

に設置される。AIBDとFederal House との間は、自動車です約10分で、移動は容易であるが、研修を効率的に進めるために同日内の移動がないようなスケジュールを組む必要がある。AIBD-IPTAR、Federal House、Furama Hotel（第三国研修期間中の研修員用宿舎）の位置関係を3-2-2図に示す。

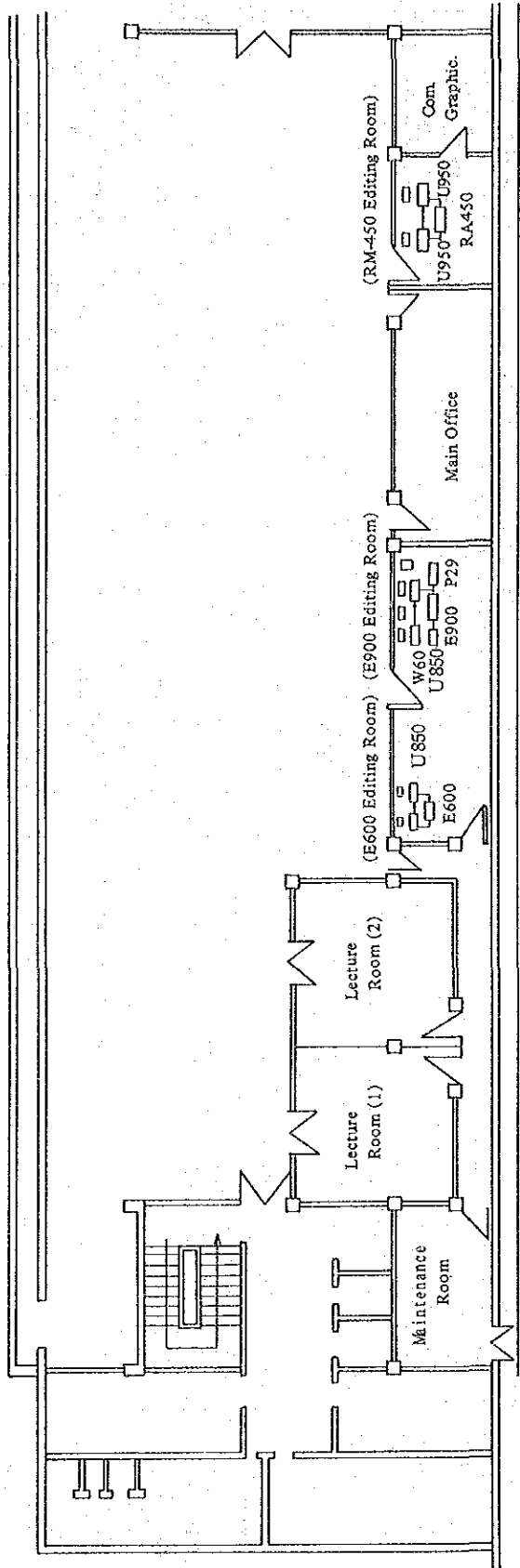
取材機材は、DXC-3000P+B VU 150Pが4セット、B V W-550Pが1セットあり、5組の取材チームが編成できる。しかし、VTR編集機はB V E 900が1セットしかなく、定員20名の研修には不十分である。短期専門家の携行機材として予定しているB V E 600（1セット）、他にAIBDが研修期間中借用する予定の1セット（型式は未定）の他に、簡易型編集機RM-450を導入を考慮することも必要である。

研修講師の担当分野は、5年の間に順次AIBD側に移行し、最終年度には新技術の講義などの一部を除きすべてAIBD側が担当することとなる。この移行を円滑に行うために、毎年AIBDから日本に受け入れる予定の研修員に対する研修は、第三国研修のカリキュラムを十分配慮し、適切な機関で行う必要がある。

また、日本から派遣する短期専門家の役割も順次講師からアドバイザー的な性格に変えていく必要がある。日本から派遣する短期専門家は、毎回放送機関から2名（技術1名、ニュースカメラマン/プロデューサー1名）派遣し、平成元年・2年度については昭和63年度単独供与機材納入メーカーから1名を派遣するのが望ましい。

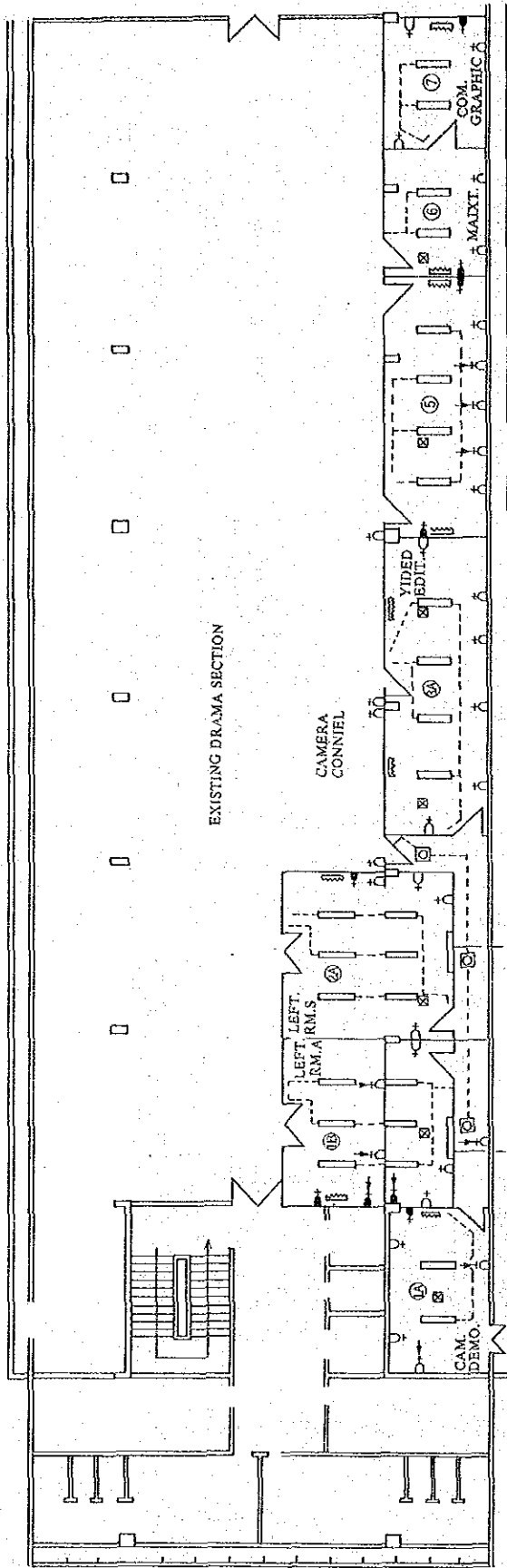
テキストは、長期専門家と短期専門家とが出来ただけ早く打ち合わせて準備する必要がある。

New AIBD Engineering Section for ENG/EFP-Advanced Course  
(P.J. Federal House 4th Floor)



New AIBD Engineering Section for ENG/EFP-Advanced Course (P.J. Federal House 4th Floor)

3 - 2 - 1 ☒



Height 8.5 p. High Ceiling  
 Height 6.9 p. Low Ceiling

5 th FLOOR PLAN (PARTY)  
 FOR ABBD UTILISATION  
 Power Points:

TO INSTALL  
 1 15A AIR-CON POWER SOCKET  
 1 13A POWER SOCKET

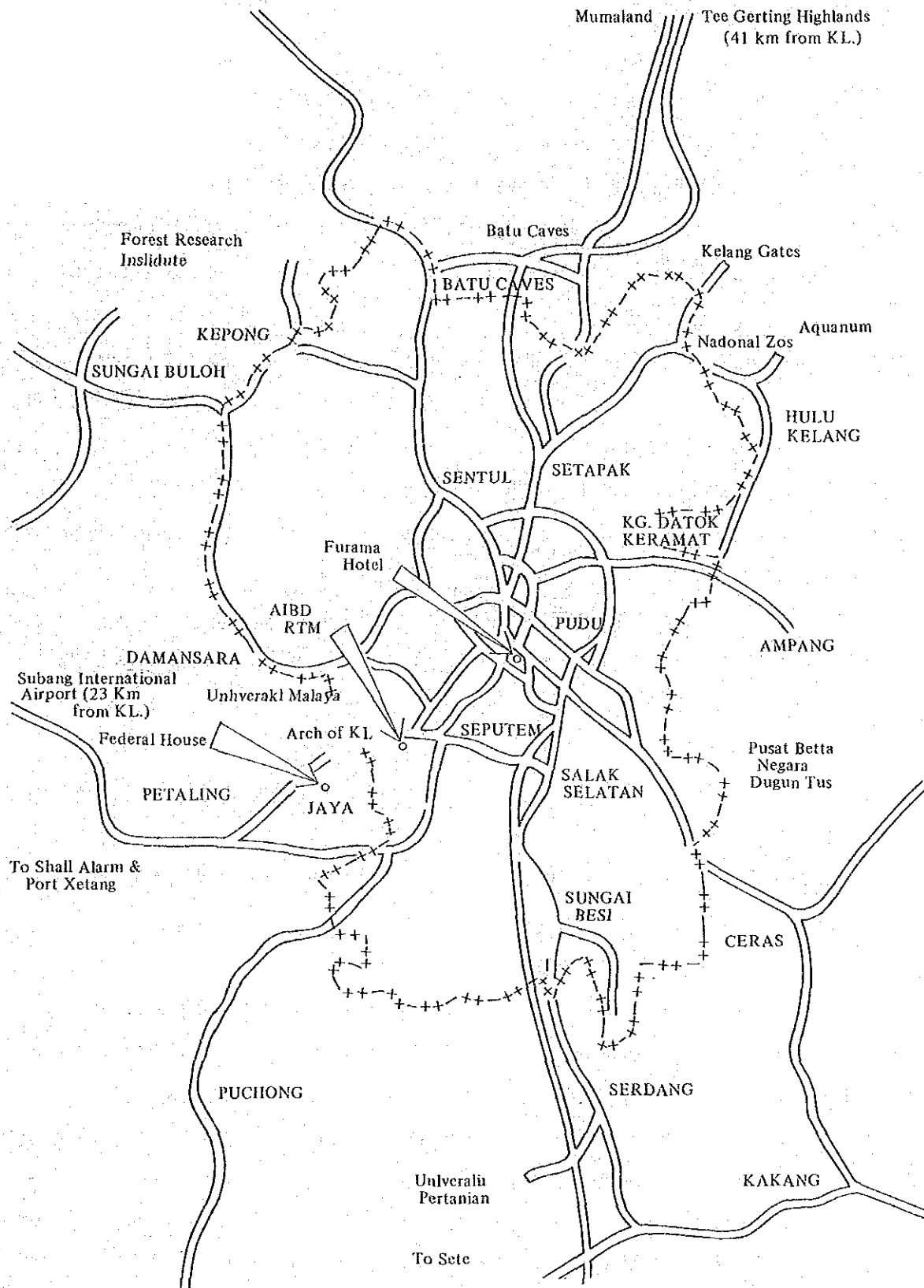
EXISTING  
 1 15A AIR-CON. POWER SOCKET ( 1/2" : to dismantle of remove)  
 1 13A POWER SOCKET ( 1/2" : to dismantle of remove)  
 — WALL TO BE DEMOLISHED

1 15A WALL OUTLET — EXTERNAL CONDENSER AIR-CON — 1 EP EACH

EXISTING AIR-CON. DUTLET.  
 1 DOUBLE TUBES CEILING FITTING WITH DIFFUSER (40W)  
 1 1 x 40W CIRCULAR TUBE CEILING FITTING WITH DIFFUSER

1 DOUBLE TUBE CEILING LIGHT WITH DIFFUSER (40W)  
 1 x 40W CIRCULAR TUBE CEILING LIGHT WITH DIFFUSER





Scale: 2 1/2 miles to 1 inch (Approx)

3 - 2 - 2 ☒ Location of AIBD, Federal House and Furama Hotel

#### 4. その他特記事項

AIBDは、1977年に創設された、地域内の放送関連の人材育成を主目的とする政府間国際機関である。設立以来、アジア全域を対象とする“Regional Training”、域内数カ国を対象とする“Sub-Regional Training”、また域内1カ国のみを対象とする“In-Country Training”等の研修を実施してきており、これまでの受講実績は、約9,500人にもものほっている。

AIBDの財政は、加盟国の分担金もさることながら、主として、各国の援助機関やユネスコ等の他の国際機関からの助成金によっている。

ところが、近年各種助成機関の関心領域が環境等放送以外の分野にシフトしつつあり、財政の拡充方策が、焦眉の課題となっている。このため、AIBDは、3名の委員から成る調査委員会を設置し、加盟国のニーズ、財政予測等について総合的な調査を実施しており、平成元年6月に加盟国の全体会議を開催し、この問題を討議することとしている。

当然のことながら、域内での援助及び放送技術において指導的立場にある我が国に対するAIBDの期待には熱いものがある。

これに対し、JICAは、第三国研修スキームの下での研修実施を支援してきている。昭和58年度から62年度まで計5回の研修コースが実施され、今回のR/D署名により平成元年度から5年間計5回の研修が実施される予定である。

現在のJICAの第三国研修スキームによる限り、一定期間のみの実施コミットメントおよびその期間内における研修のフェーズ・アウトという形態を取らざるを得ず、長期的なAIBDに対する支援が困難である。

ところが、AIBDは、他の国際機関と異り、研修実施を主目的とする国際機関であり、AIBDが存続する限り、域内の研修ニーズが存在すると言ってよい。従って、域内の指導的立場にある我が国としては、AIBDが存続する限り何らかの形でかかわらざるをえないと考える。

ひるがえって考えてみると、AIBDによる研修は、国際機関に対する研修であり、通常の第三国研修とは異なるものである。JICAとしては、国際機関たるAIBDの研修全体の中で、いかなる地位を占めるべきかという点につき確固とした方針を形成し、その方針に基づきシステムティックに支援を実施していく必要があると思われる。またこうした立場は、最近JICA内で言われている「先進国、国際機関との援助計画の調整」という方向とも合致すると考えられる。また、長期方針策定にあたっては、最近AIBDに対する接近をはかっているフランス、西独等の動向にも充分注意を払う必要があろう。

RECORD OF DISCUSSIONS  
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM  
AND THE  
ASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENT  
ON THE  
THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

FEBRUARY 14 TO FEBRUARY 17, 1989

KUALA LUMPUR



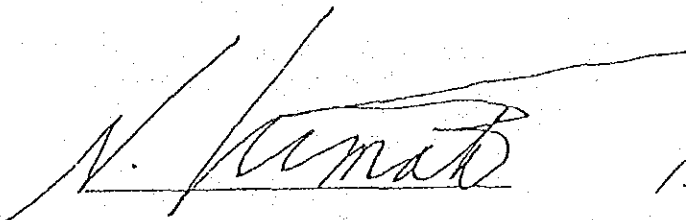
RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION  
SURVEY TEAM AND THE ASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING  
DEVELOPMENT ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team"), organised by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr Norimoto Kimata visited the Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development (hereinafter referred to as "AIBD") from February 14 to February 17, 1989 for the purpose of formulating a training course in the field of Operation and Maintenance of Electronic News Gathering (hereinafter referred to as "ENG")/Electronic Field Production (hereinafter referred to as "EFP") under the Third Country Training Programme of JICA.

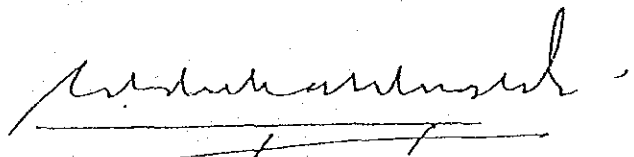
During its stay in Malaysia, the Team had a series of discussions with the Staff of AIBD with respect to the framework of the above mentioned training course and the desirable measures to be taken by the Government of Japan and AIBD to ensure its successful implementation.

As a result of the discussions, both parties agreed to promote the matters referred to in the documents attached hereto.

Kuala Lumpur, February 17, 1989



Head  
Japanese Implementation  
Survey Team



Director  
Asia-Pacific Institute for  
Broadcasting Development

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and AIBD will cooperate with each other in organizing a training course in the field of Operation and Maintenance of ENG/EFP at AIBD (hereinafter referred to as "the Course") under the Third Country Training Programme of JICA.

AIBD will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from the Japanese fiscal year of 1989 to 1993, subject to annual consultation of the Government of Japan and AIBD.

The Course will be arranged in accordance with the following:

1. TITLE

The Course will be entitled "Operation and Maintenance of ENG/EFP - Advanced Course".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to upgrade the skills of the engineers and producers in the Asia-Pacific region by introducing new technologies, methods and knowledge of ENG/EFP.

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected:

- (1) To acquire the knowledge, technologies and methods of programme production by means of ENG and EFP techniques;
- (2) To deepen the understanding of principles, operation and maintenance of ENG/EFP equipment; and
- (3) To acquire the ability to recognise the different roles of the members of the production team and to develop a spirit of team-work and cooperation in the production process.

4. DURATION

The duration of the Course shall be about six(6) weeks, and the first Course will be held from November 13 to December 23, 1989.

5. CURRICULUM

The tentative curriculum of the first Course is attached as ANNEX I.



6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following countries will be invited to apply for the Course by nominating their applicant(s):

Bangladesh, Brunei, China, India, Indonesia, Iran, Korea, Laos, Malaysia, Maldives, Nepal, Pakistan, Philippines, Singapore, Sri Lanka, Thailand, and Vietnam.

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed twenty (20) in total.

8. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are:

- 8-1 To be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure mentioned in 10-1 below;
- 8-2 To be producers or engineers in the field of TV programme production and/or maintenance;
- 8-3 To have the practical experience of more than four (4) years in the related field;
- 8-4 To be between thirty (30) and forty-five (45) years of age in principle;
- 8-5 To have a good command of spoken and written English; and
- 8-6 To be in good health, both physically and mentally, to complete the Course.

9. FACILITIES AND INSTITUTIONS

Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development.

10. PROCEDURE OF APPLICATION

- 10-1 The Government applying for the Course should forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to AIBD not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 10-2 AIBD will inform the applying Governments whether or not the applicant (s) is/are accepted to the Course not later than thirty (30) days before the commencement of the Course.





11. UNDERTAKINGS OF THE GOVERNMENT OF JAPAN AND AIBD

In organizing and implementing the Course, the Government of Japan and AIBD will take the following measures in accordance with their respective laws and regulations in force. The schedule of the course operation for the first year is attached as ANNEX II.

11-1 AIBD

- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I;
- (2) To draft and print the General Information brochures (G.I.) and forward them to the Governments of the invited countries;
- (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors for the Course;
- (4) To provide its training facilities and/equipment for the Course;
- (5) To select participants for the Course, and to inform the result of the selection to the Governments of the invited countries and the office of JICA in Malaysia (hereinafter referred to as "the JICA Office");
- (6) To arrange accommodation for participants;
- (7) To arrange international air tickets for participants from the invited countries, and to meet and see them off at the airport;
- (8) To arrange domestic study tour(s) to be included in the Course;
- (9) To take budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course, excluding the expenses financed by the Government of Japan;
- (10) To issue certificates to the participants who successfully completed the Course, at the end of the Course;
- (11) To submit a course report and a statement of expenditure to the JICA Office within thirty (30) days after the termination of the Course; and
- (12) To coordinate any other matter related to the Course.



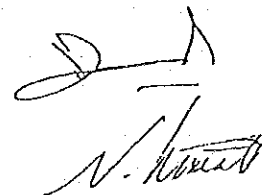
## 11-2 The Government of Japan

- (1) To despatch short-term expert(s) following the regular procedures of its technical cooperation scheme, who will give advice to AIBD and deliver lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I.
- (2) To bear the following expenses through JICA. (The tentative estimate of expenses for the first Course is attached as ANNEX III).
  - (a) Such expenses relevant to participants from the invited countries as international economy-class flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums.
  - (b) Such expenses relevant to AIBD as honoraria for external lecturers, arrangement of meeting(s) and study tour(s), teaching aids, expendable supplies, copies and reprints and secretarial services.
- (3) To receive counterpart personnel for training in Japan, following the regular procedure of its technical cooperation scheme, who will be an instructor of some subjects in the Course. This is subject to the annual budget of JICA, and whether a counterpart person is acceptable or not in each Japanese fiscal year will be notified by the end of the previous year.

## 12. PROCEDURE OF REMITTANCE AND EXPENDITURE

The remittance and expenditure of the funds for the expenses to be borne by JICA will be arranged in accordance with the following procedure:

- 12-1 AIBD will use its bank account in Malaysia to receive the funds remitted by JICA, and inform the JICA Office of the name of the bank, the account code number and the name of the account holder.
- 12-2 AIBD will submit to the JICA Office a bill of estimates for the expenses to be borne by JICA not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 12-3 JICA will assess the bill of estimates and remit the assessed amount of expenses to the account mentioned in 12-1 above within thirty (30) days after the receipt of the bill of estimates.
- 12-4 AIBD will submit to the JICA Office a statement of expenditure within thirty (30) days after the termination of the Course.



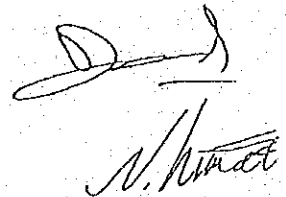
- 12-5 In case any amount of the funds remitted by JICA remains unspent, AIBD will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The funds allocated for the flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purposes.
- 12-6 At the request of JICA, AIBD will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to certify the expenditures stated in 12-4 above.
13. This Attached Document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be a part of the Record of Discussions.

ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course (in the Japanese FY 1989)

ANNEX II : Schedule of the Course Operation (for the Japanese FY 1989)

ANNEX III: Tentative Estimate of Expenses to be borne by JICA (for the Japanese FY 1989)

ANNEX IV: Attendance List

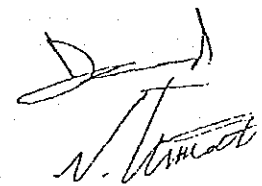


## ANNEX I

## TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE (IN THE JAPANESE FY 1989)

Week	Subjects	Days	Assigned to
1st	Opening Ceremony/Orientation	0.5	AIBD
	Country Report	0.5	AIBD
	Outline of ENG/EFP	1.0	JICA
	Key Techniques of Cameras/VTR	1.0	JICA
	Key Techniques of Audio Recording	1.0	JICA
	Basic Theory of Lighting	1.0	AIBD
2nd & 3rd	for Producers		
	Method of Planning/Program Production	4.0	JICA
	Editing Method	2.0	JICA
	Operation of ENG/EFP Equipment	1.0	JICA/AIBD
	for Engineers		
	Theory of ENG/EFP Equipment Operation/Maintenance/Measurement/Adjustment of Equipment	4.0	JICA
		3.0	JICA/AIBD
	Program Transmission by Satellite	1.0	AIBD
	New Technology in Broadcasting	2.0	JICA
4th	Practice of Editing Equipment Operation	1.0	AIBD
	Practice of Production by ENG/EFP Equipment	4.0	JICA/AIBD
5th	Practice of Editing	2.0	AIBD/JICA
	Practice of Studio Work	3.0	AIBD/JICA
6th	Practice of Program Completion	2.0	JICA
	Review of Programs	1.0	AIBD/JICA
	Q & A/Report Writing	1.0	AIBD/JICA
	Closing Ceremony	0.5	AIBD
Total		29.5	

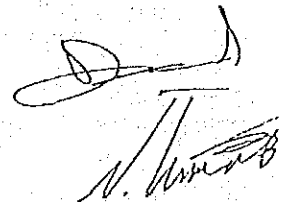
Note: The subjects assigned to JICA shall be handed over to AIBD year by year



## ANNEX II

## SCHEDULE OF THE COURSE OPERATION (FOR THE JAPANESE FY 1989)

MONTH	AIBD	JAPANESE SIDE
February 1989	1. Signing of Record of Discussions	1. Signing of Record of Discussions
May	1. Preparation of G.I.	
June	1. Distribution of G.I. and Application Forms 2. Submission of Request Forms for Experts	
August		1. Recruitment of Experts
September	1. Submission of Bill of Estimates 2. Selection of Participants	
October	1. Notification of the Selection of Participants	1. Remittance of Funds 2. Submission of Form B-1
November	1. Implementation of the Course	1. Despatch of Experts
January 1990	1. Submission of Statement of Expenditure 2. Submission of Course Report	



## ANNEX III

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSES TO BE BORNE BY JICA  
(FOR THE JAPANESE FY 1989)

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT (M\$)
<b>I. Invitation Expenses</b>		
1. Airfare (round trip)	for 18 persons	25,000
2. Perdiem	@35 X 20 persons X 43 days	30,100
3. Accommodation	@30 X 20 persons X 42 days	25,200
4. Medical Insurance Premiums	@60 X 20 persons	1,200
SUB TOTAL		81,500
<b>II. Training Expenses</b>		
1. Honoraria for external lecturers		500
2. Employment fee (secretarial assistance)	@32 X 40 days	1,280
3. Transportation		
Study Tour	@600 X 1 coach X 3 trips	1,800
Local Transport	@16 X 2 cars X 30 days	960
Airport reception	@28.80 X 15 X 2 trips	864
4. Material Procurement		
Studio Set		8,600
Video Tapes		6,440
Accessories		5,000
5. Meeting Expenses		
Opening/Closing Ceremony		3,000
6. Copying	@0.15 X 600 pages X 30	2,700
Binding	@0.20 X 600 pages X 30	3,600
Text Book Printing	@0.40 X 500 pages X 30	6,000
7. Materials	@41.80 X 30	1,254
8. Final Report Writing		500
9. Cost of services associated with field production		2,000
SUB TOTAL		44,498
GRAND TOTAL		125,998



ANNEX IV

MEETING ON ENG/EFP - ADVANCED COURSE FOR 1989 - 1993

February 14 - February 17, 1989, Kuala Lumpur

---

Attendance List

Japanese Consultation Team

1. Mr Norimoto Kimata  
(Head of Japanese Team)  
Head of Second Training Division,  
Training Affairs Department, JICA
2. Mr Takashi Kawamoto  
International Cooperation Division,  
Communications Policy Bureau,  
Ministry of Posts and  
Telecommunications
3. Dr Masami Nakagawa  
International Cooperation,  
Corporate Planning Bureau,  
NHK
4. Ms Michiyo Hashiguchi  
Administration Division,  
Training Affairs Department,  
JICA

Member of AIBD

1. Dato Abdullah Mohamad  
Director of AIBD
2. Mr Brajesh Bhatia
3. Mr John Nettleton
4. Ms Margaret Juliana Dass
5. Mr Katsumi Shiraishi
6. Mr Hajime Kikumura

From Embassy of Japan and JICA in K.L.

5. Mr Shigeshi Mimura  
First Secretary of Embassy of Japan
6. Mr Yasuo Sakai  
Assistant Resident Representative  
JICA, Malaysia Office











